

藤前干潟普及啓発用リーフレット (リーフレットの内、一部を紹介しています。)

〇クイズ「藤前干潟を探検しよう！」

表面

ふじ まえ ひ が た たんけん  
**藤前干潟を探検しよう!**

**スタート**

**Q.1** 昔の干潟について考えてみよう!  
江戸時代の干潟は今よりも広がったかな?

◎ 今よりもずっと広がったんだ!今の名古屋市の南側も干潟で、熱田神宮(熱田)あたりまで続いていたといわれているんだ。その干潟も江戸時代の頃から、出んぼにしたり、任んだり、工場をつつたりするために埋め立てられたんだ。 Q.2へ

◎ 今よりもせまい  
◎ 今よりも広い

**Q.2** 緊急事態!! 藤前干潟がごみの埋立て処分場!  
どうすれば藤前干潟を守れるんだろう?  
例えば…おかしの箱を捨てるとき、きみはどうする?

◎ 1999年まで、藤前干潟はごみの埋め立て予定地だったんだ。だけど干潟を残すために、埋め立て計画は中止され、かわりにみんなでごみを減らしていくことにしたんだ! Q.3へ

◎ 分別して資源回収に出す  
◎ もえるごみとして出す

**Q.3** 川からよごれた水が流れてきた。  
このままだと海がよごれてしまう! 誰に助けを求めればいいのかかな?

◎ 水は山から海へ流れるまでに、人が使うことでよごれてしまうんだ。そのよごれを食べて、きれいにするのが干潟の生きもの。だけど、プランクトンの数が増えすぎても水はよごれてしまうんだ。プランクトンを食べる魚、魚を食べる鳥、全ての生きものを守ることも、水のよごれを防ぐことにつながるんだよ。 Q.4へ

◎ 人間は川や海をよごすこともきれいにすることもできるんだ。みんなで、川や海をきれいにしよう! Q.4へ

◎ 人間の力にも限界がある。川や海をよごさないでね。

◎ 干潟の生きものたちの食物連鎖

**Q.4(つらな)へ続く**

裏面

**Q.4** 鳥たちはどこから来るのか考えてみよう!

◎ 鳥たちはどこから来るのか考えてみよう!  
はー彼れれた。長旅だったよ。藤前干潟には食べ物がたくさん。ぼくたちは名古屋市が湿地提携をしている都市からやってきたんだよ。どこ湿地提携をしているか知ってるかい?

◎ 2007年に名古屋市はオーストラリア・シロング市と湿地提携を結んだんだ。冬にシロング市にいた鳥と、春に藤前干潟で出会えるかもしれないね。 Q.5へ

◎ 湿地提携「渡り鳥たちが行き来する場所である湿地を守っていくために協力しよう」という約束

◎ オーストラリア シロング市  
◎ イタリア トリノ市

**Q.5** 地球の環境を守るために、世界はどんなことをしているのかな?

◎ そういえば、2010年10月、藤前干潟がある名古屋市で、生きものについているんな国が集まって話し合うんだよ。どんな話し合いか知ってる?

◎ イタリア・トリノ市は名古屋市の姉妹都市だよ! 名古屋市は他にも4つの都市と姉妹友好都市提携を結んでいるんだ。

◎ 湿地を守っていくための話し合いは、ラムサール条約締結国会議というんだ。藤前干潟は、ラムサール条約湿地となっているよ。

◎ みんなで生きもの全体を守っていくための話し合い  
◎ みんなで湿地を守っていくための話し合い

◎ 生きもの全体を守っていくための話し合いは、生物多様性条約締結国会議(「生物多様性条約」)というんだよ。生物多様性とは、さまざまな場所にたくさんの種類の生きものがいて、つながりあっているということ。藤前干潟にもたくさんの生きものがいてつながっている。名古屋市でのCOP10(生物多様性条約第10回締結国会議)開催をきっかけに、みんなも身近なところから生きものつながりについて考えてみよう。

**ゴール**

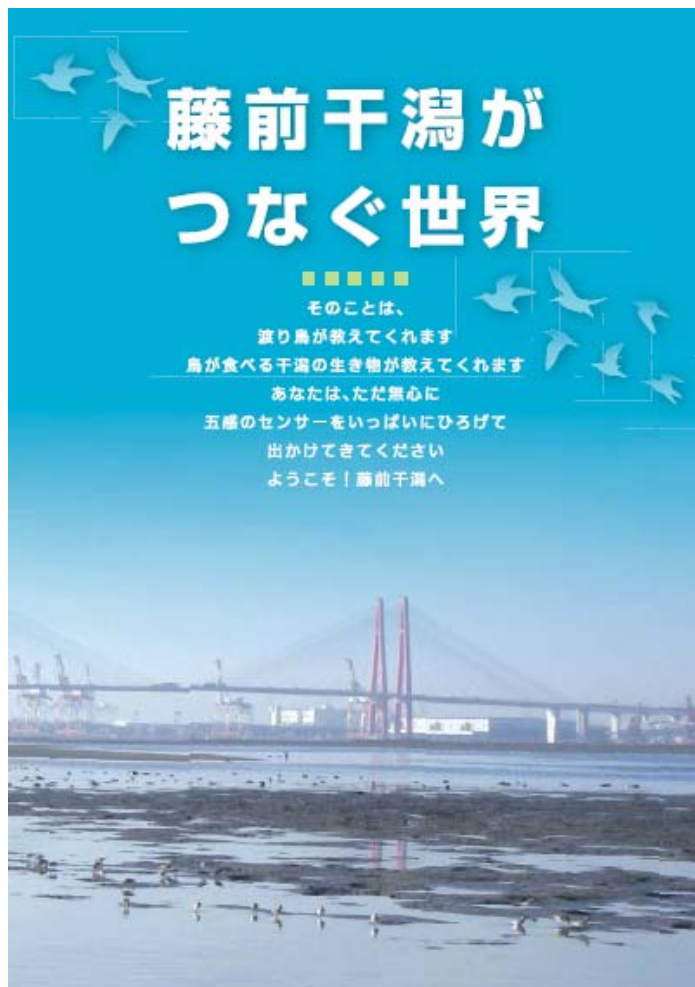
◎ これで君は藤前干潟博士だ! もっとよく知るために、藤前干潟に出かけてみよう! インターネットには藤前干潟クイズもあるよ。

名古屋市 環境情報ネット (<http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/>)

◀発行▶ 名古屋市環境局環境都市推進課 〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1-1 TEL:052-972-2861 FAX:052-972-4134  
このリーフレットは、市職/パブリックを含む再生紙を使用しています。

○「藤前干潟がつなく世界」  
表紙

見開き



## 藤前干潟は鳥たちの休息地

藤前干潟は、たくさんの渡り鳥が来る国際的に重要な湿地として、2002年に「ラムサール条約」に登録されました。

渡り鳥の種類はいろいろありますが、藤前干潟に多いのはハマシギやダイシャクシギ、ダイゼンなどのシギ・チドリ類です。ここには春と秋の2回、シギ・チドリ類が多く見られるようになります。そのほか、夏にはコアジサシ、冬にはスズガモやオナガガモなどのカモ類が多く見られます。

これらはすべて季節ごとに移動する「渡り鳥」です。カワウやカルガモ、ミサゴなど、1年を通して見られる鳥も多くなります。

### 藤前干潟周辺に飛来する渡り鳥

 ● <b>ハマシギ</b> 藤前干潟を代表するシギの仲間。数百年の歴史を持って飛び回る鳥が有名。	 ● <b>ダイシャクシギ</b> 長いくちばしを持つシギの仲間。高気圧の通過をすることで知られる。夏鳥は夏鳥。	 ● <b>ダイゼン</b> 夏に飛来し、冬に飛来するシギの仲間。夏と冬で羽の色が異なる。夏鳥は夏鳥。
 ● <b>オナガガモ</b> 冬鳥の仲間。羽が長く伸びているのが特徴。オナガガモで色が異なる。夏鳥は夏鳥。	 ● <b>コアジサシ</b> 夏に飛来するシギの仲間。羽の色が異なる。夏鳥は夏鳥。	 ● <b>スズガモ</b> 冬に飛来するカモの仲間。二羽以上のペアで行動する。冬鳥は冬鳥。

### 藤前干潟周辺で1年を通じて見られる鳥

 ● <b>カワウ</b> 日本では唯一、海や川にサテてエサをとる。夏はカワウの羽の色が異なる。	 ● <b>カルガモ</b> 冬に飛来するカモの仲間。冬に飛来するカモの仲間。冬に飛来するカモの仲間。	 ● <b>ミサゴ</b> 冬に飛来するカモの仲間。冬に飛来するカモの仲間。冬に飛来するカモの仲間。
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 名古屋・ジロング湿地連携

名古屋市は2007年、オーストラリアのジロング市と、湿地連携を結びました。

ジロング市はオーストラリアの南東部にあり、「スワンベイ干潟」をはじめ多くの湿地がラムサール条約登録地になっています。藤前干潟と同じ渡り鳥のルート上にあるので、冬にジロング市にいた鳥が春には藤前干潟で見られる、ということもあるかもしれません。



ジロングの湿地(コネクト)

以下のアドレスから、渡り鳥のジロングの湿地のウェブサイトを閲覧することができます。名古屋湿地連携ネットワーク <http://www.kokumet.city.nagoya.jp/>

### シギ・チドリ類の東アジア・オーストラリアルート

繁殖地  
藤前干潟  
中継地  
越冬地  
■ジロング市

右の図はシギやチドリがどのように季節ごとの移動をするかを示したものです。夏はシベリアやアラスカ、冬は東南アジアやオーストラリアまで移動するものもいます。このような移動ルートがわかってきたのは最近のことです。

このような長い旅の途中、鳥たちは湿地でしばらく休んで体力を回復させながら移動していきます(藤前干潟もそのうちの1つです)。渡り鳥が生活するためには、そのルート上のすべての湿地が必要なので、国際的な協力によってそれらを保全するようにしたのがラムサール条約です。

※英語版もあります。